



東桜コンピテンシー「⑨創造力」について ～その3～

⑨「創造力」

「他人と同じことをよしとせず、常に新しい、より良い方法やアプローチがないかを考える力。既存の考え方や発想をもとにしたときでもその延長線上ではない、新しい付加価値を備えたものに昇華させることができる力。」

今回は、創造力を養うための具体的な方法について考えてみましょう。

(i) 創造力を働かせる「対象」を理解する

たとえば、次の項目は、「常識に捉われない発想や工夫」を取り入れることにより「新しい価値を生み出す」対象となり得ます。

- ・問題発見の新しさ：まだ誰も気付いていない「問題」や「課題」を発見する
- ・問題の解釈の新しさ：新しい視点や枠組みで問題を捉え直す
- ・解決策の新しさ：常識や固定観念を捨てて、これまでとは異なる解決策を描く
- ・実行方法の新しさ：従来のやり方に囚われずに、独自の工夫をもって実行する

(ii) 物事を多面的に捉える

物事を多面的に捉えることができれば「視点の置き方」や「視野の広さ」「視座の高さ」など、多様な視点を行き来させることによって、人とは異なる概念や切り口を見出せるようになります。

たとえば、次のような切り口で物事を多面的に捉えることにより、「常識に囚われない発想や工夫」を取り入れ「新しい価値を生み出す」ヒントとしましょう。

- ・枠組みをリフレーミングする
- ・上位目的へ遡る
- ・前提を疑う
- ・別の概念を組み合わせる
- ・アナロジーを使う

(iii) 徹底的に考え抜く思考習慣を身に付ける

「創造力」を高めるには、ゼロベースでありとあらゆる可能性を考えるようアプローチし、たとえ新しい解を得られたとしても、常に一つの答えに留まらず、ほかに可能性がないかを考える思考習慣が必要です。

そこまで考えてひねり出すことによってはじめて、今まで気付かなかった創造的な解決策やアイデアが見えてくる。

(参考) 創造力とは | 「フツーの人」が創造力を養う5つの方法

令和元年（2019年）12月